

第2回 志染中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年10月4日

会場：志染町公民館

1 現在の通学方法

- 中学校は、通学方法として全員自転車でもOKとしている。歩いてきても良いが、ほとんどいない。通学路を大きく分けると3つになる。東側は御坂から学校、西は安福田（あぶた）のカーブから学校、窟屋交差点から学校にそれぞれ続く道に、各地域から集まってきて通っている。通学には遠い生徒で30分ほどかかり、ゆっくりとしても40分あれば学校に着く。しかし、三津田、戸田の一番端からだと、もう少し掛かるのではないかと思う。男女差もある。テスト期間などは、教職員が各所に立って、下校指導をしている。
- 小学校は、3種類の通学方法がある。吉田・東吉田・安福田・戸田地区から通う児童は、バス通学をしている。三津田地区から通う児童は、現在、保護者による送迎で通学している。御坂・窟屋・井上・志染中・高男寺・細目地区から通う児童は徒歩通学をしている。徒歩については、距離がある場合もあるが、人の目の垣根隊の方や保護者の方に見守っていただくなど、安全に配慮して通学している。

2 通学に関する課題

- 緑が丘中学校に統合すると仮定すると、青山まで登っていく坂が大変であり、登下校における子どもの体力面に不安がある。また、近頃は暗くなる時間が早いので、防犯上の面からも不安に思う。登校に係る時間や距離の規定はあるのか。
- バスでの送迎を考えても良いのではないかと思う。距離によっては、中学生は、自転車通学を取り入れても良いと思う。自由が丘中学校に統合すると仮定しても、距離があり、交通事故のリスクは高まるので、同様にしてはどうかと思う。
- 具体的には何も決まっていないが、あえてと言うならば、バスか自転車くらいしか考えられない。
- 現在の志染中学校の場所に一旦自転車で集まり、そこからバスで行くという方法も考えられる。スクールバスにしても、時間の問題がある。他の地域の生徒より20分は早く家を出ないといけないうだろう。スクールバスだと時間通りに動くが、路線バスだと遅れることなどもある。
- スクールバス、路線バス、どちらにしても、1便だけではなく複数便走るようにしてもらいたい。
- 青山の坂を自転車で下るのは、ものすごいスピードになる。登りのしんどさだけではなく下りの安全も考える必要がある。
- 緑色のバス（コミュニティバス）が走っているが、それらもうまく活用しながらスクールバスとして走らせると保護者負担も少なくなる。
- 制服、自転車など保護者に負担にならないようにしてもらいたい。

3 学校の再編方法（喫緊の課題及び小中一貫校や義務教育学校への再編）

- 今、緑が丘中学校か自由が丘中学校かという形で話が進んでいる。保護者がOKならいいが、子どものことをしっかりと考えないといけないう。
- 喫緊の課題である志染中学校と星陽中学校の課題を解決してから、小中一貫などを考えるべきではないだろうか。市外の学校に通わせようという人が出てくるかもしれない。しっかり受け皿を準備するため、もっと早く指針を出すべきだ。

- 残した方がいいという方もいるし、自由が丘中学校や緑が丘中学校が良いという方もいる。保護者全員に対する情報提供が少なすぎる。より多くの情報を市から出していただき、保護者の意見をよく聞きいてほしい。再度、より具体的なアンケートを実施してほしいという意見もある。
- 早急に決めてもらいたいと言う人もいれば、時期尚早という人もいる。
- 通学、制服、移行の学年、一貫校を設立してから一気に移行するべき、今の部活にもメリット・デメリットがある、他校と合同で活動すれば良いなど、人によって様々な意見があり、それらを聞いていると、個人的にもとても悩む。
- 少人数は少人数なりのいいところがある。それをもう一度考えてほしい。
- 喫緊の課題として、今後、小6や中1の子がどうしたらいいかを考えることや見通しを持てるように情報を示すことが大切である。
- アンケートも1つの方法だが、本当にそれでいいのか。保護者の生の意見を聞く場をつくる方がいいのではないか。保護者の意見をどのように聞いていくかは、今後PTAでも検討していきたい。
- 子どもや保護者に不安がないように計画的に進めることが大切である。
- 志染中学校に今の段階でいる子どもたちは今のまま、新一年生から新しい学校に行くという方法が良いのではないか。その方法が可能であるのか。

4 その他の課題

- 緑が丘や自由が丘の人たちは、どんな意見を持っているのか。
- 相手の地区の保護者や地域の方が志染のことを、どれだけ考えられるかが大切である。志染について、実感はないと思うが、一緒に考えることが必要である。
- 子どもたちの感覚では、志染の子は転入生という感じかもしれない。それではいけない。どちらの子も経験していないことだが、手を取り合っていかなければならない。
- 大きな学校が、志染を吸収するという考えではいけない。
- 住宅地や農村部など、住んでいる地域により、考え方が異なるため、いろんな摩擦が出てくるだろう。それをいかにケアするかが大切になってくる。
- 志染中学校が大きな学校と一緒になったとしたならば、生徒の数は10分の1程度だから、しんどく感じることもあると思う。下校時刻も住宅地と志染とでは差がある。そこをしっかりと考えていく必要がある。

5 全般について

- 「統合しないとしたら」という話はいつできるのか。統合することが前提で話をしているような印象があるが、もっと早く、市民に説明を行うべきで、他の校区の人は、学校再編についてほとんど知らない。ベッドタウンとしてできた、自由が丘、青山、緑が丘地区の方は移動（引っ越す）ことができる。もともとの志染に住んでいた人は移動ができない。農業は移動ができないことや子どもと地域を切り離せないということをお忘れなさい。
- 志染小学校は、置いておきたいが、志染という町がなくなったらどうしようもない。それを住民はもっと考えなければならない。これからは、農業の存続が困難で、一部の地域は、田畑をコンピュータ管理したり、農業機械の自動化を進めたりはしている。学校と地域の問題の両方を考えなければならない。
- ここの地域がいかに素晴らしいかが、子どもたちに伝わっていない。その反面、良さを教えれば、子どもは純粋で分かってくれると思う。
- 地域の間人として、学校をお手伝いできることは何かを考えていきたい。